

祖父と剣道

東京都

武道学園純正館

小学6年 金井康介

僕には、四十歳の時から剣道を始めて、現在教士七段になる八十四歳の祖父がいます。

祖父とは離れ離れに暮らしてありますが、祖父の勧めで小学校一年生の時に、武道学園純正館に入館しました。

同級生たちは、みんな幼稚園から剣道を始めており、面や胴の防具を着けて稽古をしていましたが一年生から剣道を始めた僕は、足さばきや素振りなどの基本稽古について行くのがやっとでした。

そんな中、垂、胴、小手、と順々に防具を着ける許可を道場の先生から頂き、やっと面を着けて稽古が出来るようになり、これでやっと同級生たちに追いつけたと思いました。しかし、試合をしてみると同級生たちには全く勝てませんでした。

本当に本当に悔しくて、祖父に、

「どうしたら試合に勝てるようになる？」

と電話で聞いてみました。そうしたら、

「今度、家に来る時に竹刀を持ってきなさい。」

と言われました。僕はそのときに、祖父に教えてもらえることにワクワクしながら祖父の家に竹刀を持っていきました。

いつもは優しい祖父でしたが、剣道のことになると厳しく、そして真剣に教えてくれました。「康介、剣道は基本が大切だ。強くなりたければ、もっともっと基本の面打ちを稽古しなさい。」と言われ、素振りの仕方や、祖父が剣道具を着けての面打ち等をしてくれました。

これは、僕が祖父の家に行くたびに毎回してくれて、その度に自分が強くなっているなどという自信になることもあり、祖父の家での特訓が楽しくて仕方ありませんでした。

祖父との特訓の成果もあり、道場の同級生たちにも勝てるようになってきました。

僕が上達していく姿を祖父も喜んでくれ、試合会場にも何回か応援に来てくれ、励みになりました。

そんな祖父ですが、実は僕が剣道を始める前に、心臓と胃の手術を受けていました。剣道をするには無理だと言われていたのですが、僕に稽古をつけてくれるためにリハビリを頑張っていたそうです。そして、祖父自身も試合に出られるくらいに元気になりました。

僕はまだ大会では勝ち進んでいくことが出来ないのも、もっともっと稽古を頑張りたいです。

来年僕は中学生になります。中学に行っても祖父と剣道がしたいです。それには祖父がずっと元気でいてくれること、そして剣道の良さを教えてもらいたいです。

僕も、生涯続けられるように、一番近くにいる祖父を見習い、祖父の歳を超えるまで剣道を続けていきたいと思います。